

資料 2 第 132 回火山噴火予知連絡会について

平成 27 年 6 月 15 日、第 132 回火山噴火予知連絡会が開催された。同連絡会では、全国の火山活動の評価のほか、口永良部島、御嶽山、桜島等の火山活動について特に重点的に検討を行い、委員及び関係機関からの報告をもとにとりまとめた。その結果を気象庁が以下のとおり発表した。

第 132 回火山噴火予知連絡会 口永良部島の火山活動に関する検討結果

口永良部島の火山活動は活発な状態が継続しています。今後も 5 月 29 日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

口永良部島では 2015 年 5 月 29 日 09 時 59 分に新岳火口から爆発的噴火が発生し、大きな噴石が火口周辺に飛散し、黒灰色の噴煙が火口縁上 9,000m 以上に上がりました。

この噴火に伴い発生した火砕流は、新岳火口からほぼ全方位に広がり、北西側は海岸（向江浜地区）まで、南西側では海岸付近まで、また南東側では中腹まで流下しました。

噴火後に火口底は深くなり火口壁の一部が消失しましたが、火口縁の西側割れ目及び南側割れ目の形状には大きな変化はないことから、今回の噴火は既存の火口内で発生したものとみられます。

また今回の噴火は、昨年（2014 年）8 月 3 日の噴火を超える規模と推定され、噴出した火山灰の分析からマグマ水蒸気噴火と推定されています。

噴火前の 5 月 18 日以降、最大 M2.3 の地震を含む地震活動の活発化がみられ、噴火の直後から同日の 13 時にかけて多数の地震が発生しました。また火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は 5 月中旬から減少し、5 月下旬には 1 日あたり 300～700 トンでしたが、噴火直後は 1 日あたり 3,800 トンと非常に多くなりました。

5 月 31 日以降は噴火は発生していませんが、現在も白色噴煙の活動は続いており、火山性地震も少ない状態ながら発生しています。二酸化硫黄の放出量も 1 日あたり 1,200 トンと多い状態です。

これらのことから、火山活動は活発であり、引き続き 5 月 29 日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

大きな噴石の飛散や火砕流の流下が予想されますので、厳重な警戒（避難等の対応）が必要です。新岳火口の北西から南西にかけての沿岸海域でも、火砕流による影響が及ぶ可能性があります。

るため警戒が必要です。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要です。降雨時には土石流の可能性があるので注意が必要です。

第 132 回火山噴火予知連絡会 御嶽山の火山活動に関する検討結果

御嶽山の火山活動は低下した状態が継続しています。噴煙活動や地震活動は続いており、今後も火口周辺に影響を与える小規模な噴火が発生する可能性があります。

御嶽山では、昨年（2014 年）10 月中旬以降、噴火は観測されていません。噴煙は噴火直後に比べて減少した状態で経過しています。火山性微動は昨年 12 月以降観測されていません。

火山性地震は減少していますが、昨年 8 月以前の状態には戻っていません。

地殻変動観測では、火山活動の高まりを示す変化は観測されていません。

以上のように、御嶽山の火山活動は低下した状態が続き、昨年中旬以降噴火が発生していないことから、昨年 9 月 27 日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられます。しかしながら、弱いながらも噴煙活動や地震活動が続いていることから、昨年 9 月 27 日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できません。

火口周辺では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

第 132 回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動の評価

第 131 回火山噴火予知連絡会（平成 27 年 2 月 24 日）以降の全国の火山活動について検討を行い、結果を以下のとおり取りまとめました。

○全国の主な火山活動

今期間（平成 27 年 2 月 24 日～6 月 15 日）、口永良部島、桜島、西之島、阿蘇山、諏訪之瀬島で噴火が発生しました。

口永良部島〔噴火警報（噴火警戒レベル 5）〕については別に「口永良部島の火山活動に関する検討結果」として取りまとめました。

御嶽山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3）〕に

については別に「御嶽山の火山活動に関する検討結果」として取りまとめました。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3）〕

昭和火口の噴火活動は、活発な状態で経過しました。火山灰の噴出量は 2015 年 1 月から 4 月までで 320 万トンと多くなっています。噴煙の高さの最高は火口縁上 4,300m、大きな噴石は最大 3 合目（昭和火口より 1,300~1,800m）まで達しました。

地殻変動観測では、桜島島内で 2014 年 12 月下旬頃から山体の隆起と膨張と考えられる変化が継続しています。今後、多量の火山灰を降らせる噴火が発生する可能性があります。

また、始良カルデラ深部では長期的に膨張が進行してきており、引き続き活発な噴火活動が継続すると考えられますので、火山活動の推移に注意してください。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

西之島〔火口周辺警報（入山危険）〕

西之島では噴石等を放出する噴火や溶岩の流出が続いています。2015 年 5 月 20 日時点で、新たな陸地の面積は約 2.6km² になっています。

島の中心から概ね 4 km 以内では噴火に警戒してください。

阿蘇山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕

2014 年 11 月 25 日から始まったマグマ噴火は、2015 年 5 月 21 日までは断続的に続いていたことが確認されています。GNSS 連続観測では、深部のマグマだまりがあると考えられる草千里を挟む GNSS 連続観測の基線で、わずかな伸びの傾向が認められていましたが、2015 年 3 月頃から停滞しています。二酸化硫黄の放出量は、1 日あたり 800~3,700 トンと多い状態で経過しています。

以上のように中岳第一火口では火山活動が停滞する傾向がみられるものの、活発な火山活動が続いていることから、中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

草津白根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕

2014 年 3 月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加し、地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が継続しています。湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な

状態が継続しています。また、北側噴気地帯のガス組成及び湯釜湖水の化学成分の活動活発化を示す変化が継続しています。

草津白根山では火山活動が活発化しており、今後、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

吾妻山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕

2015 年 1 月中旬以降、地震回数は減少していますが、5 月上旬には一時的な増加や火口側上がりの傾斜変化を伴う火山性微動もみられています。GNSS 観測及び SAR 干渉解析では、2014 年 9 月頃から一切経山付近の膨張を示す変化がみられています。大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いており、地熱域のわずかな拡大傾向もみられます。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

蔵王山〔火口周辺警報（火口周辺危険）〕

2015 年 4 月に御釜周辺が震源と推定される火山性地震が増加し、火山活動が活発になりましたが、5 月下旬以降は地震の少ない状態で経過しています。

2013 年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、2014 年 10 月以降はわずかな膨張を示す地殻変動が観測されるなど、長期的にみると火山活動はやや高まった状態にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

箱根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕

4 月 26 日から火山性地震が増加し、活発な状態が続きました。5 月 3 日以降、大涌谷温泉供給施設で蒸気が継続的に勢いよく噴出しているのを確認したほか、この付近では局所的な隆起を示すと考えられる変化も確認されています。傾斜計、ひずみ計、GNSS により地殻変動も観測されています。

6 月に入ったころから地震回数が減少しているものの、地震活動、地殻変動及び活発な蒸気の噴出が継続している間は、大涌谷周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大涌谷周辺では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがありますので注意が必要です。

浅間山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕

火山性地震及び火山性微動が、2014 年頃から増加する傾向がみられ、火山性地震は 4 月下旬頃からさらに増加しています。6 月 11 日には火山ガスの放出量の急増もみられました。

火口から概ね 2 km の範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

各地方の主な活火山の火山活動評価

1. 北海道地方

①アトサヌプリ〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②雌阿寒岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

・4 月 15 日から 18 日にかけて、ポンマチネシリ火口付近の浅い所を震源とする規模の小さな地震が増加しました。

・全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ 96-1 火口近傍の地下では、2015 年 3 月中旬以降熱活動が活発化している可能性が考えられますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

③大雪山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④十勝岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

・4 月 4 日から 7 日にかけて火山性地震が一時的に増加するなど、4 月以降火山性地震の一時的な増加や火山性微動の発生がしばしば観測されました。

・4 月 9 日及び 13 日に実施した上空からの観測（北海道、国土交通省北海道開発局の協力による）や 4 月 9 日に実施した現地調査では、火口や噴煙の状況及び火山ガスの放出量に特段の変化はありませんでした。

・ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生及び発光現象などが観測されており、長期的にみると火山活動は高まる傾向にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑤樽前山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

・火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

・山頂溶岩ドーム周辺では、1999 年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

⑥倶多楽〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑦有珠山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

・4 月 19 日から 21 日にかけて、有珠山北側山腹のやや深い所（深さ約 6 km 付近）を震源とする微小な地震が一時的に増加しましたが、その他の期間は少ない状態で経過しました。

・その他のデータに特段の変化はみられず、噴火に至る兆候は認められません。

⑧北海道駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨恵山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

2. 東北地方

①岩木山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②八甲田山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③秋田焼山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④岩手山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

・火山性地震は、期間をとおしては概ね少ない状態で経過しています。

・その他の火山活動は低調に経過しており、噴

火の兆候は認められません。

⑤秋田駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- ・^{めだけ}女岳では、2009 年から拡大している地熱域が引き続きみられますが、今期間は大きな変化は認められませんでした。
- ・地震活動は、一時増加することもありましたが概ね低調で、地殻変動に特段の変化はみられませんでしたが、地熱活動が続いていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑥鳥海山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑦栗駒山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧蔵王山 [火口周辺警報（火口周辺危険）] ←平成 27 年 4 月 13 日に噴火予報（活火山であることに留意）を火口周辺警報（火口周辺危険）に引上げ

- ・2015 年 4 月 7 日から 5 月中旬にかけて、御釜周辺が震源と推定される火山性地震が増加し火山活動が活発な状況となりました。
- ・このことから、小規模な噴火が発生する可能性があると考えられたことから、気象庁は 4 月 13 日に、火口周辺警報（火口周辺危険）を発表しました。
- ・5 月下旬以降は地震の少ない状態で経過しています。
- ・2013 年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、2014 年 10 月以降はわずかな膨張を示す地殻変動が観測されるなど、長期的にみると火山活動はやや高まった状態にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑨吾妻山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

- ・1 月 14 日に 193 回を観測した地震回数は、同月中旬以降減少し 1 日あたり 10 回前後で経過していましたが、5 月 3 日以降増加し、5 月 6 日には地震の日回数が 110 回となり、1 月 14 日に次ぐ回数となりました。
- ・5 月 6 日に発生した火山性微動では、2 月 14 日同様、微動発生に伴い、火口側上がりの傾斜変化がみられました。
- ・GNSS 連続観測及び SAR 干渉解析では 2014 年

9 月頃から一切経山付近の膨張を示す変化がみられています。

- ・大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いています。また、地熱・噴気域のわずかな拡大傾向がみられています。
- ・大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

⑩安達太良山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪磐梯山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

3. 関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

①那須岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②日光白根山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③草津白根山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

- ・湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が 2014 年 3 月上旬から増加しています。2014 年 8 月下旬以降はやや少ない状態で経過していますが、2015 年 1 月以降一時的な地震の増加がみられます。火山性微動は発生していません。
- ・GNSS による地殻変動観測では、2014 年 4 月頃から湯釜を挟む基線でわずかな伸びの傾向がみられます。湯釜周辺の傾斜計にも湯釜付近の膨張を示す変動が継続しています。
- ・湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態が継続しています。
- ・2014 年 5 月頃から湯釜近傍地下の岩石の熱消磁によると考えられる全磁力変化がみられていましたが、7 月以降は停滞しています。
- ・2014 年 5 月から、北側噴気地帯の硫化水素ガ

ス成分が急減しています。湯釜湖水の温度は例年よりやや高めで推移しており、湖水中のフッ化物イオン・塩化物イオンが増加しています。

- ・草津白根山では火山活動が活発化した状態が続いており、今後、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

④浅間山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）]

←平成 27 年 6 月 11 日に噴火警戒レベルを 1（活火山であることに留意）から 2（火口周辺規制）に引上げ

- ・火山性地震及び火山性微動ともに、2010 年 4 月以降やや少ない状態でしたが、2014 年頃から増加する傾向がみられています。このうち火山性地震は 4 月下旬頃からさらに増加しています。
- ・二酸化硫黄の放出量は、6 月 8 日の観測で 1 日あたり 500 トン、6 月 11 日の観測では 1,700 トンと急増しています。6 月 13 日の観測でも 1 日あたり 700 トン、15 日の観測でも 1,100 トンと多い状態が続いています。
- ・これらのことから、火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があると考えられたことから、気象庁は 6 月 11 日に、火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。
- ・6 月に入ってから火口底の温度の上昇がみられます。
- ・山体周辺の GNSS による地殻変動観測では、2009 年秋頃から縮みの傾向がみられていましたが、2015 年 4 月頃から伸びに転じた可能性があります。
- ・火口から概ね 2 km の範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

⑤新潟焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑥弥陀ヶ原 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過しています。
- ・立山地獄谷では以前から熱活動が活発でしたが、2012 年 6 月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されており、今

後の火山活動の推移に注意してください。また、この付近では火山ガスに注意してください。

⑦焼岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧乗鞍岳 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨御嶽山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）] ←平成 27 年 3 月 31 日に警報事項を切替え（噴火警戒レベル 3（入山規制）は継続）

- ・今期間、噴火は発生しませんでした。
- ・剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からの噴煙は、高さ火口縁上 100~500m で経過しています。
- ・地震回数は少ない状態で経過していますが、2014 年 8 月以前の状況には戻っていません。低周波地震は、2 月 23 日に 2 回、4 月 10 日、5 月 2 日、5 月 28 日に各 1 回観測していますが、いずれも振幅は小さく、発生前後で他のデータに特段の変化はみられていません。
- ・今期間火山性微動は観測されていません。
- ・火山ガス（二酸化硫黄）観測によると、3 月までは 1 日あたりおよそ 100~300 トンとやや少ない状態が続いていましたが、6 月の調査で二酸化硫黄の放出量は検出限界以下となりました。
- ・GNSS による地殻変動観測では、御嶽山を挟む短い基線で 2014 年 10 月から 2015 年 3 月頃にかけて縮みの傾向がみられており、山体の収縮を示していた可能性があります。
- ・御嶽山の火山活動は低下した状態が継続しており、昨年（2014 年）10 月中旬以降噴火が発生していないことから、昨年（2014 年）9 月 27 日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられます。しかしながら、噴煙活動や地震活動が弱いながらも続いており、昨年（2014 年）9 月 27 日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できません。
- ・火口周辺では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

⑩白山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪富士山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- ・2011 年 3 月 15 日に山頂の南南西約 5 km、深さ 15 km を震源とする静岡県東部の地震（マグニチュード 6.4、最大震度 6 強）が発生しました。それ以降、その震源から山頂直下付近にかけて地震活動が活発な状況となりました。その後、地震活動は低下しつつも継続しています。
- ・その他の観測データに異常を示すものはなく、噴火の兆候は認められません。

⑫箱根山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）] ←平成 27 年 5 月 6 日に噴火警戒レベルを 1（活火山であることに留意）から 2（火口周辺規制）に引上げ

- ・4 月 26 日から駒ヶ岳の北部で火山性地震が増加し、5 月中に活動の中心が駒ヶ岳の直下、北西方向、北方へと移りました。5 月 15 日には、北西方向で地震の日回数が 2001 年以降で最多の 442 回となるなど、特に活発な状態となりました。6 月に入ってからはいくつか減少しています。低周波地震及び火山性微動は発生していません。
- ・5 月 3 日頃から、大涌谷温泉供給施設で蒸気が継続的に勢いよく噴出しているのを確認しています。噴出の勢いは 6 月 4 日の現地調査で 5 月に比べやや弱まっています。SAR 干渉解析によると、この大涌谷温泉供給施設付近では局所的な隆起を示すと考えられる変化が確認され、地上では亀裂が認められています。隆起には鈍化の傾向がみられます。
- ・傾斜計では、4 月下旬頃から火山活動に伴う変化が継続していますが、次第に鈍化する傾向を示す観測点もみられます。湯河原鍛冶屋の体積ひずみ計では、4 月中旬頃からのわずかな縮みの変化の後、4 月下旬頃から伸びの変化に転じて継続しています。
- ・GNSS 連続観測では箱根山を挟む基線で 4 月頃から小さな伸びが継続しています。
- ・火山ガス成分によると新たなマグマの浅部への貫入は認められていません。
- ・箱根山の火山活動は活発な状態が続いていましたが、6 月に入って地震回数が減少しています。ただし、地震活動、地殻変動及び活発な蒸気の噴出が継続している間は、大涌谷周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があります。大涌谷周辺では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがありますので注意が必要です。

⑬伊豆東部火山群 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑭伊豆大島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- ・地殻変動観測によると、短期的な膨張や収縮があるものの、長期的には、地下深部へのマグマ供給によると考えられる島全体の膨張傾向が継続しています。
- ・その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。長期的には山体の膨張が継続していることから、今後の火山活動に注意してください。

⑮新島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑯神津島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑰三宅島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）] ←平成 27 年 6 月 5 日に噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引下げ

- ・噴火は 2013 年 1 月 22 日を最後に発生していません。
- ・噴煙は白色で、高さは火口縁上 100～500 m で経過しています。
- ・山頂浅部を震源とする地震は概ね少ない状態で経過しました。
- ・二酸化硫黄の放出量は長期的には緩やかな減少傾向にあり、2014 年以降は 1 日あたり 500 トン以下で経過しています。
- ・以上のことから、噴火の兆候が認められなくなったと判断し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引下げました。
- ・なお、GNSS による観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013 年頃から停滞しています。一方、島内の長距離の基線で 2006 年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続しています。
- ・主火孔における噴煙活動及び火山ガスの放出が継続していることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性があります。

⑱八丈島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑱青ヶ島〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑳西之島〔火口周辺警報（入山危険）〕

- ・2013年11月20日に西之島の南東海上で確認された噴火では、噴石等を放出する爆発的噴火や溶岩の流出により新島が拡大し、2013年12月26日には西之島旧島と一体となりました。
- ・その後も噴火活動は継続し、新たに形成された陸地（西之島旧島と接続した新島部分）の拡大が確認されており、西之島旧島のほとんどを埋没させています。2015年5月20日時点で、新たに形成された陸地の面積は約2.6km²になっています。
- ・西之島では噴火が継続しており、島の中心から概ね4km以内では噴火に警戒してください。

㉑硫黄島〔火口周辺警報（火口周辺危険）〕

- ・島北西部の井戸ヶ浜で、5月22日及び24日に水蒸気の噴出を確認しています。
- ・島西部のミリオンダラーホール（旧火口）では、2012年2月以降ごく小規模な水蒸気爆発が度々発生していますが、2013年4月12日以降、噴火は確認されていません。
- ・地震活動はやや多い状態で経過しています。火山性微動は時々観測されています。
- ・GNSSによる地殻変動観測では、2014年12月頃から隆起の傾向がみられ、2015年1月中旬頃から隆起速度が上がっています。4月中旬から西向きの変動速度が上がっています。なお、島内南北方向の伸びの傾向は継続しています。
- ・硫黄島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生した地点及びその周辺では警戒してください。

㉒福徳岡ノ場〔噴火警報（周辺海域警戒）〕

- ・長期間にわたり変色水が確認されており、小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では警戒してください。

4. 九州地方・南西諸島

①鶴見岳・伽藍岳〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②九重山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
- ・GNSS観測によると、わずかな伸びの傾向がみられていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

③阿蘇山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

- ・中岳第一火口では2015年5月21日まで断続的に噴火が続き、4月23、24及び26日には、灰白色の噴煙が火口縁上1,500mまで上がりました。3月2日、4月21日及び4月24日の夜間に実施した現地調査では、ストロンボリ式噴火を観測し、赤熱した噴石が断続的に火口縁上200mの高さまで上がるのを確認しました。また、夜間に遠望カメラ（高感度カメラ）で火映を時々観測しました。
- ・中岳第一火口周辺で観測された降灰量は、阿蘇山特別地域気象観測所では、3月2～31日に2,442g/m²、4月2～30日に1,868g/m²、阿蘇市役所では、3月2～31日に175g/m²、4月2～30日に26g/m²でした。
- ・現地調査によると2014年11月25日から2015年5月11日までの噴火による火山灰の総量は210万トン程度と概算されています。
- ・噴出したスコリア等の分析によると、マグマの組成は1970、1980年代の噴出物と類似しています。
- ・二酸化硫黄の放出量は、1日あたり800～3,700トンと多い状態でした。
- ・火山性微動は概ね振幅の大きな状態で継続しました。
- ・5月3日22時04分に、継続時間約5分間の振幅の大きな火山性微動が発生し、南阿蘇村中松で震度1を観測しました。火山性微動により震度1以上を観測したのは、1995年7月4日（震度1）以来です。翌日（4日）に実施した現地調査では、火口から北東約4kmの阿蘇市一の宮町宮地で降灰を確認しました。5月5日の現地調査では、中岳第一火口内の141火孔の南側が陥没していることを確認しました。
- ・5月8日12時58分に、中岳第一火口付近のごく浅い所を震源とする地震が発生し、南阿蘇村中松で震度3を観測しました。地震の前後で噴煙や地殻変動の状況に特段の変化は認められませんでした。
- ・傾斜計では、5月8日の地震に伴って、わずかに火口方向が下がる変化が認められました。
- ・GNSS連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線の伸び

は、2015 年 3 月頃から停滞しています。

- 以上のように、阿蘇山では火山活動が停滞する傾向がみられるものの、活発な火山活動が続いていますので、中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。火口周辺では強風時に小さな噴石が 1 km を超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石にも注意してください。
- 南阿蘇村吉岡の噴気活動はやや活発な状態が続いており、引き続き噴気活動に注意してください。

④雲仙岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
- 長期的には 2010 年頃から火山性地震の活動がやや活発となっていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑤霧島山

新燃岳 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

- 新燃岳では、2011 年 9 月 7 日を最後に噴火は発生していません。
- 火口内に蓄積された溶岩のわずかな体積膨張は続いています。火口内南東側の火孔の形状にも特段の変化はみられませんでした。しかし、火口にたまった溶岩内部には依然高温状態の部分もあると考えられます。
- 3 月下旬から 4 月上旬にかけて新燃岳火口直下を震源とする火山性地震がやや増加し、4 月中旬以降もこれまでよりやや多い状況で経過しました。3 月頃から振幅のやや大きな BH 型地震が増加しています。
- 3 月 1 日に継続時間 1 分未満の振幅の小さな火山性微動が 1 回発生しました。火山性微動を観測したのは 2012 年 2 月 1 日以来です。
- GNSS 観測によると、新燃岳の北西数 km（えびの高原付近）の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられましたが、2015 年 1 月頃から停滞しています。
- 新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には泥石流や土石流に注意してください。

御鉢 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

えびの高原（硫黄山）周辺 [噴火予報（活火山であることに留意）] ←平成 27 年 5 月 1 日に火口周辺警報（火口周辺危険）から噴火予報（活火山であることに留意）に引下げ

- えびの高原（硫黄山）周辺では、2013 年 12 月頃から火山性地震の多い状態が続いていましたが、2015 年 4 月頃から少ない状態となっています。
- 2014 年 8 月 20 日には、硫黄山付近が震源とみられる火山性微動が発生しましたが、その後は発生していません。
- GNSS 連続観測では、えびの高原（硫黄山）周辺の一部の基線で、2013 年 12 月頃からみられた地盤の伸びの傾向は、2015 年 1 月頃から停滞しています。
- 火山活動によると考えられる傾斜変動は認められません。
- 噴気は認められず、赤外熱映像装置による観測では熱異常域は認められません。硫黄山周辺の全磁力繰り返し観測でも、地下の熱活動の高まりは認められません。
- 以上のことから、えびの高原（硫黄山）周辺の火山活動は低下しており、硫黄山周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断し、5 月 1 日 10 時 00 分に噴火予報を発表し、火口周辺警報（火口周辺危険）から噴火予報（活火山であることに留意）に引下げました。
- 活火山であることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、留意してください。

⑥桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）]

- 昭和火口の噴火活動は、活発な状態で経過しました。
- 今期間（2015 年 2 月から 5 月 31 日）の爆発的噴火の回数は 547 回で、大きな噴石が 3 合目まで達した噴火が 10 回発生しました。噴煙の高さが火口縁上 3,500m 以上の噴火は 15 回発生し、最高は火口縁上 4,300m（5 月 21 日 10 時 20 分の爆発的噴火）でした。ごく小規模な火砕流が 3 回発生し、昭和火口の東および南東側へ約 500m～600m 流下しました。
- 南岳山頂火口では、5 月 12 日にごく小規模な噴火が発生しました。
- 鹿児島県の降灰観測データをもとに解析した桜島の火山灰の月別の噴出量は、2 月及び 3

- 月はそれぞれ約 70 万トンとやや多い状況が続き、4 月は約 120 万トンと多くなりました。
- ・3 月 31 日 07 時 27 分に発生した地震（M2.8：暫定値）では、鹿児島市内で震度 1 を観測しました。この地震の震源は、桜島南西部の海拔下 8 km 付近で、同付近の海拔下 8～10km 付近に分布する A 型地震が 3 月 31 日から 4 月 2 日にかけて一時的に増加しました。
 - ・二酸化硫黄の放出量は、1 日あたり 400～5,400 トンと概ね多い状態でした。
 - ・桜島島内の伸縮計・傾斜計・GNSS 連続観測では、2014 年 12 月下旬頃から山体の隆起と膨張と考えられる変化が継続しています。この山体の膨張・隆起により、2012 年 7 月 24 日及び 2013 年 8 月 18 日以上の多量の火山灰を噴出する噴火が発生する可能性があります。
 - ・GNSS 連続観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）では、2013 年 6 月頃から停滞していましたが、2015 年 1 月から伸びの傾向がみられます。
 - ・火山灰の放出量と地殻変動量から導いた桜島直下へのマグマの供給量は、2015 年 1 月ごろから増加する傾向が続いています。
 - ・以上のように、桜島では引き続き活発な噴火活動が継続すると考えられますので、火山活動の推移に注意してください。
 - ・昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

⑦薩摩硫黄島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
- ・硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

⑧口永良部島 [噴火警報（噴火警戒レベル 5、避難）] ←平成 27 年 5 月 29 日に噴火警戒レベルを 3（入山規制）から 5（避難）に引上げ

- ・口永良部島では 5 月 29 日 09 時 59 分に爆発的噴火が発生しました。噴火と同時に大きな噴石が火口周辺に飛散し、火砕流はほぼ全方位に流れ、北西側（向江浜地区）では海岸まで達しました。噴煙が火口縁上 9000m 以上上昇

- し東南東に流れました。今回の噴火は 2014 年 8 月 3 日の噴火を超える規模と考えられます。
- ・新岳火口の火口壁の一部は消失していましたが、西側割れ目及び南側割れ目の形状に大きな変化はありませんでした。
- ・噴火発生に伴い火山性微動と山頂側が沈降する傾斜変化が観測されました。
- ・5 月 23 日 08 時 00 分に、島内のごく浅いところを震源とする地震（M2.3：暫定値）が発生し、島内で震度 3 を観測しました。その後 A 型地震が一時的に増加しました。
- ・噴火前と比較して、新岳火口内及び火口縁で一部形状の変化が認められた他、火口底が深くなっていることが確認されました。
- ・噴火前には、現地調査及び上空からの観測で、新岳火口縁の西側及び南西斜面の噴気地帯で熱異常域を継続的に確認しており、西側の熱異常域では 3 月頃から明らかな温度の上昇が認められていました。
- ・3 月 24 日の夜間に、遠望カメラ（高感度カメラ）で火映を観測しました。口永良部島で火映を観測したのは初めてです。火映はその後時々観測していましたが、噴火発生後は観測されていません。
- ・火山ガスの観測によると、2014 年 8 月 3 日以降、二酸化硫黄の放出量がやや多くなり、2014 年 11 月から 2015 年 5 月上旬までは 1 日あたり 400～4,200 トンと多い状態で経過していましたが、5 月中旬には 1,200 トン以下、5 月下旬には 300～700 トンと、噴火前は次第に減少していました。噴火直後の観測では、1 日あたり 3,800 トンで、その後減少しましたが 1 日あたり 1,200 トンと多い状態です。
- ・GNSS 連続観測では、2014 年 12 月頃から一部の基線にわずかな伸びの傾向が認められていましたが、2 月頃から鈍化しています。
- ・噴火後の噴煙の状態、二酸化硫黄放出量、及び地震活動は、噴火前の地震活動が高まる以前と同程度で継続しています。今後も今回と同程度の規模の噴火が発生する可能性があるため、厳重な警戒が必要です。
- ・噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

⑨諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

- ・御岳火口では、爆発的噴火が 14 回発生するなど活発な噴火活動が継続しました。
- ・噴煙の高さの最高は、4 月 11 日の爆発的噴火に伴う火口縁上 1,700m でした。また、同火

口では夜間に遠望カメラ（高感度カメラ）で火映を時々観測しました。

- ・十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、2月26日に切石港（御岳の南約3.5km）で、4月11日に集落（御岳の南南西約4km）で降灰が確認されました。
- ・火山性地震はやや少ない状態で経過しました。火山性微動は、断続的に発生しました。
- ・今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。